

### 3週 三位一体・神

**質問5.** ひとりの神のほかに、多くの神が存在しますか。

**答え I** ただひとりの神だけがおられます。それは、生けるまことの神です。

**質問6.** 神には、いくつの位格がありますか。

**答え I** 神の位格には、父、子、聖霊、つまり、三位としておられます。三位は本質において同一であり、力と栄光において同等の、ひとりの神です。

#### 解説

##### ひとりの神

神がおられるのが明白なのに、神の存在を信じない者たちは、神の厳重な審判を感じるでしょう（申4:39、イザヤ45:21）。神は、存在するすべての第一の原因であります。それで、すべての万物は神に依存されています。神は彼らに生命力を与え、存在するようにされています。従って、あらゆる偽りの神々を拝むのは深刻な罪です。一方で神は、偽りの神々を礼拝し、拝む者たちに惑わす

力を送り込ませ審判なさいます（Ⅱテサロニケ 2:11）。

神はただひとりなので、正しい信仰も一つしかありません（エペソ 4:5）。従って、ほかの宗教を通しては救いは得られません。幻的な方法によって偽り信仰を造り出すとか、偽りの神を立てるのも、神の審判を引き起こすことです。神はあらゆる偽りの神々と区別されるので、まことに恵みを悟った者は、偶像を捨て神に立ち返ります（Ⅰテサロニケ 1:9）。すべての命は、生けるまことの神の中にあり、神から来るので、その神を探し求めなければなりません（Ⅰテモテ 6:13, 15-16）

聖書が、神はただひとりだと確証しながら語っています（申 4:4、ガラテヤ 3:20、詩 86:10、Ⅰコリント 8:6）。つまり、ひとりの神以外、ほかの神々に仕えてはならないということです（申 32:39、イザヤ 43:10, 44:6-8, 45:5-6）。神がひとりと言うのは、ただ神だけが、すべての原因であり、すべての最終的目的だということです。従って、神がおひとりだというのは、ただ神だけを喜ばせ、神にだけ感謝すべきであることを意味します。

私たちは神の御心に合うように生きようと努力することで、神を喜ばせることができます。キリストは父の御心に従われました（ヨハネ 4:34）。私たちは、神が私たちに命じることを行うことで、神を喜ばせるのです。また、私たちの心を捧げることで、そして、おひとりなる神に祈ることで神を喜ばせるのです（ヨハネ 17:20-21）。祈りは礼拝の一部分だから、必ず捧げなければなりません。しかし、おひとりの方、神以外の物に仕えることは、みな偶像崇拝です。私たちがこの地において、偽りの神を信じないと言っても、金を最高と考え愛するなら、それも偶像崇拝です（Ⅱテモテ 3:4、エペソ 5:5）。また子供のことを最高に思ったり、自分の腹に仕えることも偶像崇拝です（ピリピ 3:19, Ⅰヨハネ 2:16）。

## 生けるまことの神

生きておられる神とは、神はあるという方、すべて自然的なものと、霊的なもの、そして、永遠の命の原因だということです（使徒 17:28、エペソ 2:2、コロサイ 3:3-4）。

まことの神とは、すべての偽りの神々と区別されるということです。まことと言うのは、神は実際に存在し、真理の中におられ、想像や考えによって作られる方ではないということです。なぜなら偶像は、人間の想像や考えによって作られるので、神はそのような偽りの神々とは区別されるからです。生きておられることと、まことというものは、互いに連結されていて、これは、神の属性なので分離されることはないからです。生きておられる神だけが唯一まことの神であり、まことの神だけが生きておられる神です（Iテサロニケ 1:9）。

## 三位一体

神はおひとりですが、ひとつの本質の中に区別され、三位としておられます。（Iヨハネ 5:7）。これは神聖な秘密として、人間の自然の光によって発見できるものではありません。本質にあって三位はひとつです。つまり、三位は神的性質が同じです。ですから、三位にあって程度があるものではありません。三位は、総合間に結合しておられます。三位にあって、知恵と聖と力において差があるものではありません。

第一の位格は、「御父」と呼び、第二の位格は「御子」、第三の位格は「聖霊」と呼びます。三位一体・教理は、私たちの救いを理解させるために必須的な知識です。御父が選び、選ばれた民のために御子が贖いの働きを行われます。そして聖霊は、贖いの恵みが、実際に選ばれた者たちに起こるように適用させます。従って、三位一体・教理を断ることは、救いの道を断ることと同じです。

## 位格がなさる働きの区別

すべての完全さは、御父に起因することと見ます（ヨハネ 5:26）。すべてのことを計画し、御心を持っておられるのは、御父に帰します（ヨハネ 12:27-28）。一方、永遠の贖いを用意させ（ヘブル 9:12）、罪を赦し（マルコ 2:5）、終わりの日に墓の中にいる者をよみがえらせ（ヨハネ 5:28-29）、世を審判なさること（ロマ 14:10）については、御子の働きに帰します。三位の中で、聖霊の働きとして区別されるのは、贖いの恵みを、有効に適用させる働きです（エペソ 1:13）。

このように、位格がなさる働きを区別して、三位一体に対する知識が必要な理由は、神の救いの御業を理解するためです。神の選ばれた民に、どのようにして救いが起こされ、実際に、救いが生じるのかを知るためです。勿論、これを知識的に知ることが救いではありません。知識的に知ることと共に、実際に救いが生じるようにさせる、聖霊の有効な御業がなければなりません。それゆえ、三位一体・教理は、抽象的で、哲学的なことではなく、霊的なことです。

さらに三位一体・教理は、信者の生活と直接的な関連を持ちます。信者が礼拝する時、御子にあつて、聖霊を通して、御父に礼拝するのです。祈る時にも、御子の名によって、聖霊の助けの中で、御父に求めるのです（エペソ 2:17, 5:20）。

三位一体・教理は、聖書を通してただ発見できることで、三位の神が、ご自身の民を、どのように救うのかを見せてくださり、信者の信仰の規範が、この教えに根拠していることを教えてくれるのです。